

グリーン・ツーリズムの取組事例

(1) 京都府美山町

(京都市の北約35km)

約250軒の茅葺き屋根農家が残る伝統的な農村景観を活用し、京阪神の大都市住民によるファンクラブ「かやぶきの里美山と交流する会」等と交流するグリーン・ツーリズムを展開



①取組の概要

町では約250軒の茅葺き農家が残り、町役場が中心となって、「かやぶきの里美山で自然と向き合うゆとりある休暇を」をテーマに、かやぶき屋根農家による民宿の営業を核としたグリーン・ツーリズムを展開。

ア 京阪神の都市住民の有志により結成された「かやぶきの里美山と交流する会」(会員として涼風真世(女優)、桂南光(落語家)等多彩な人材が参加、約200名)が活発な交流活動。

イ 茅葺き屋根の農家建築をテーマとしたイベントの開催。

ウ 陶芸等の体験ができる設備等が整った中核交流施設「自然文化村河鹿荘」を整備。

エ 茅葺きの民家を改築して民俗資料館として「かやぶきの里」を整備。

②成果

ア 成果の概要

- ・年間入込客数は平成6年37万人から平成12年47万人へ拡大し、グリーン・ツーリズムによる地域づくりが伸展。

イ 成功要因

- ・町役場に「村おこし課」を設置するとともに、教育委員会、生活改善グループ等からなる「村おこし推進委員会」を設置し官民一体となった体制を整備。
- ・町役場が、美山町伝統的建造物群地区保存条例、かやぶきの里保存基金条例を制定し、茅葺き民家の保存、かやぶき職人育成のための支援制度を整備。
- ・町役場が、美しい町づくり条例を制定し、美しい景観と住みよい環境づくりを推進するため、土地開発建築等を規制。



美山町の「茅葺き屋根農家群」

町人口	5,466人	町への年間入込客数	471千人
-----	--------	-----------	-------

(2) 長野県飯山市

(長野市の北約30km)

農家民宿の夏期における利用率を高めるため、ブナ林等自然景観を活かし、首都圏を中心とする都市住民を受け入れたグリーン・ツーリズムを展開



①取組の概要

農家民宿の夏期における利用率の向上を図るため、都市農村交流施設と農家民宿が連携することによって、ブナ林等自然景観を活かした都市住民を受け入れたグリーン・ツーリズムを展開。

ア ブナ林・菜の花等自然景観を活かしたイベントを実施。

イ 日本生活協同組合連合会と連携して「グリーンライフ事業」(都市住民の農業・農村旅行)の実施。

ウ 東京都子ども会連合会との協定による年間約2万人の子供たちの受入。

エ 都市農村交流施設と農家民宿のマップ化や案内板設置等地域内ネットワークの形成。

②成果

ア 成果の概要

- ・年間入込客数は、近年、冬季スキー客が減少傾向にあるものの、夏の入込客の増加により全体としては、増加傾向で推移しており、グリーン・ツーリズムによる地域づくりが進展。

イ 成功要因

- ・飯山市グリーン・ツーリズム推進協議会(農協、観光協会、市等)による推進体制を確立。
- ・ブナ林等の地域資源の掘り起こしや農作業体験インストラクター等人材を育成。
- ・飯山市インターネットホームページ等を活用して、農家民宿の体験メニューや各種イベント内容等について、都市側への情報発信に努力。
- ・都市農村交流施設「なべくら高原森の家」では、県外出身若手スタッフが体験メニューを企画。インストラクターを農家民宿へ派遣するなど拠点施設として機能。
- ・都市農村交流施設「トピアホール」が窓口となり、各農家民宿への分宿等による修学旅行等団体客の受入体制を整備。



「なべくら高原 森の家」



「菜の花まつり」

市人口 26,421人

市への年間入込客数 200万人

(3) 長野県四賀村

(松本市の北約10km、東京から約180km)

北アルプスの美しい自然景観を活かして、滞在型市民農園を整備し、都市住民を受け入れたグリーン・ツーリズムを展開



①取組の概要

北アルプスの美しい自然景観を活かして、平成5年に「坊主山クライנגアルテン」を開設。

ア 遊休化した桑園を活用し、クライנגアルテン（ログハウス付き市民農園）53区画（1区画：300㎡、うち農園面積110～120㎡）の整備。

クライングアルテン利用者は、①1ヶ月に6日以上利用、②草刈り等共同作業への参加等が条件。

イ 併せて、集会用施設や、一般来訪者向け滞在施設の整備。

ウ 北アルプスの景観を活かした夕涼み会や収穫祭等地域資源を活用した都市住民、地域住民の参加と連携によるイベントの開催。

②成果

ア 成果の概要

- ・グリーン・ツーリズムの展開により、地域住民は「自然」、「農村景観」、「農業」等自らの地域を再評価、都市住民は「ゆとりとやすらぎの場」を得るとともに、「地域住民との親戚づきあい」という共生関係を構築。

イ 成功要因

- ・クライングアルテンの先駆けとして注目を集めたことを契機として、首都圏を中心とする都市側への情報発信。
- ・農作業の指導を行う村民ボランティア等村ぐるみでの都市住民を受け入れる体制の確立。
- ・クライングアルテンの管理運営を行う「ぼうずやまクライングアルテン倶楽部」の設立と季節ごとの地域資源を活かしたイベントの実施。

「坊主山クライングアルテン」



クライングアルテンの区画



村人口 6,354人

村への年間入込客数 152千人